

辺野古土砂北九州

発行…2022 年 12 月号・No.36



《築城基地から民間の与那国空港に到着し、公道を走る、熊本の自衛隊の戦闘車》

11 月 15 日、熊本の陸上自衛隊を出た「16 式戦闘車(MCV)」は、高速道路を博多経由で自力走行し築城基地に到着。築城基地から自衛隊の輸送機で与那国島に移動し、公道を走行するという既成事実を作った。与那国島の空港周辺では、MCVの走行に反対する住民らが抗議活動を行い、玉城デニー知事も「公道を自走する訓練が実施されたことは誠に残念」とコメントした。

※キーン・ソード 23…11 月 10 日から 19 日まで、南西諸島などで行われた自衛隊と米軍による今年度最大規模の日米共同統合演習。自衛隊2万6000人、米軍約1万人、両軍の航空機約370機、空母を含む艦艇約 30 隻が動員された。キーン・ソード自体は、ほぼ2年に1回実施され、今回で 16 回目。今回の最大の特徴は、沖縄を舞台に、公然と民間の港湾・空港・道路を演習場所としたところ。

《目次》

世話人沖縄に…不屈のたたかいにエネルギーもらう……………	2 ページ
【連続エッセイ】秋の訪れと「ひろゆき発言」(浦島悦子)……………	10 ページ
【インフォメーション】連続学習会・日程……………	11 ページ

写真提供…松本秀樹・大野保徳



発行 「辺野古土砂ストップ北九州」

安和・塩川・辺野古・伊江島…世話人が訪問 不屈のたたかいにエネルギーもらう

〰〰〰 現地に呼応、地元で出来る限りのことを 〰〰〰

辺野古土砂ストップ北九州 世話人 宗吉信

■「また参加したい」の思いで

6月の「安和桟橋、塩川港大行動 2022」で、初めて現地の活動を体験して、沖縄の人たちの毎日の行動に頭が下がりました。元々沖縄に住んでいる人たちに加え、内地から移住して来た人たち、自分ができる範囲で一定期間、長期に滞在して行動に参加する人たちもいました。僕はたった3日間参加しただけでしたが、是非また参加したいという思いを持ちながら日常の生活に戻っていました。

そろそろ気候も落ち着き、観光客も減り出す秋になり、辺野古土砂世話人会で「安和・塩川連帯行動」と銘打って現地での行動を提案しました。何と！二人の世話人か

ら参加希望をいただき、僕を含め三人の都合が合う11月末からの日程が決まりました。

前回参加した時に知り合った、西浦さんという東京から移住して活動している方に連絡を取り、現地での行動のアドバイスをいただきました。移動日を除く中3日間の行動のうち、一日は辺野古の埋め立て現場周辺の、海側で行動する抗議船に乗せていただき、その日午後3時のシュワブゲート前座り込みに参加する計画も入れました。

■足はパンパンに

沖縄は、ずっと雨が続いていましたが、出発直前の天気予報では、現地で行動す



キャンプ・シュワブのゲート前では、この日も抗議の座り込みが行われていた

る3日間は晴れ後曇り。ラッキーと思っていましたが、結局雨が降らなかったのは初日のみ。初日は午前中塩川港、午後からは安和栈橋で行動しました。気温は最高 29℃にはなったようですが、思ったより日差しは強くない中でした。

朝 8 時から昼は 1 時間以上休憩を取って夕方 5 時に切り上げた(現地の行動時間は 7 時～19 時過ぎ。でも丸一日参加するのではなく、みなさん自分のできる時間帯での参加のようです)にもかかわらず、足はパンパンでした。

■連続エッセイの浦島さんにも会えた

2 日目は抗議船に乗る予定でしたが、当日朝、風が強く波が荒いので中止と連絡がありました。それで、朝 9 時のゲート前座り

込みに参加することにし、少し時間があつたので、海側のテント小屋に行ってみると、運良く当日常駐の当番という浦島悦子さんとお会いできました。更に、ゲート前座り込みでは、しばらく前に浦島さんから紹介があつていた、京都から来て数ヶ月行動している通称「うみ」という若者と隣り合わせ、彼がこれまで感じたことを綴り、知り合った同世代にも寄稿してもらって自費製作した小冊子をいただきました。北九州でも配ってほしいという依頼があつていたという話も聞いていたのですが、是非実現できたらと思います。素敵なお若者でした。

■安和栈橋…機動隊員が力づくで制止

午後は安和栈橋に行って行動しました。小雨が降り、風が強い中で、雨具を着てい



9月22日、ゲート前の座り込みが3000回を超えたが、浜のテントでは来年7000日を超える。左は会報の連続エッセイの筆者・浦島悦子さん

ても寒さで震えました。今回、ほとんど港の出口で、土砂を降ろしてまた積み込みに向かうダンプが出るのを遅らせる行動をしました。二人以下での行動だと、ダンプにすり抜けられてしまうこともあるのですが、三人以上いて、うまく呼吸を合わせることができたら、かなりの成果が上がります。ただ、途中急に機動隊員が増えて、一人がスピーカーで何か言っていて（声が小さくて全く聞こえない）、歩道を牛歩してダンプの進行を遅らせようとしている我々を突然機動隊員が力づくで制止することがありました。最初何が起ったのかわからないので、機動隊員にどうして急に制止するのか尋ねると、「規制がかかっています。聞こえませんでしたか？」と言うので、「声が小さくて全く聞こえなかった。こんなことする法的根拠は何か？」と尋ねても、今度は何も答えません。仕方なく立ち止まっていると、港から次から次にダンプが出て来ます。こんなにたくさんのダンプを港に閉じ込めていたのかと、改

めて行動の成果を確認しました。でも、せっかくの成果が、これで振り出しに戻ってしまいます。一定時間、ダンプを遅らせてはいるのですが。

■港の中にダンプ溜まると動く機動隊

いつも活動している人の解説によると、港の中にダンプが一定溜まり出すと、機動隊が動き出すそうで、「規制」に法的根拠はないと思うが、検挙されないようにするには、抵抗もできないとのこと。何とも納得のいかない話で腹が立ちますが、この行動は弁護士の支援もあっているだろうし、その中で抵抗できないというのですから、やっぱり仕方ないのでしょうか。「規制」はこの日午後だけで 2 回ありました。普段、数人が道路で我々を速く渡らせようと促していて、多くは港の中に停めてあるバスの中で待機している機動隊員が、港内にダンプが溢れ出すと出て来て我々の行動に「規制」をかけます。機動隊は、工事を進める琉球セメントと、抗



塩川港の中で抗議行動をする世話人

議行動をする側の中立の立場だと聞いていましたが、これでは工事を進める側を支援していることにしかありません。わかり切ったことですが、建前さえ守られていない！やっぱり腹が立つ！

■地元で出来る限りのことを

気休めということでもありませんが、3日目は予定を変更して伊江島に渡りました。この報告は、他の参加者が詳しくするでしょうから省略させていただきます。我々の観光半分の行動を暖かく支え、情報提供や事前手

配をしていただいた西浦さんに感謝！

でも、三人とも「行って良かった」という気持ちで帰って来れたのは何よりと思います。重ねて言うことにはなりますが、現地で活動している方々には頭が下がります。だから我々は地元でできる限りのことをしたい、そして、時々には現地に行って、またエネルギーをいただきたいと思います。今回三人で参加できたのも良かったし、次回はまた新しい人ともいっしょに行けたら嬉しいです。

(むねよしまこと)

~~~~~ たたかいの現場に再度行きたい ~~~~~

辺野古土砂ストップ北九州 世話人 松本秀樹

11月28日より12月2日の5日間の行程で、辺野古土砂北九州の世話人3名にて沖縄へ、各所レンタカーで廻り、目的の塩川・安和・辺野古と伊江島に行きました。28日名護市で泊り。29・30日塩川・安和桟橋にて現地の反対行動に参加。ダンプトラック入口場の阻止行動(入場して来るダンプカーの前で道路を横断し牛歩する)周りには機動隊・防衛局の職員・民間会社警備員がいる。機動隊は安全の為に称して早く移動するよう体を押したりすることも。防衛省職員はやたらスピーカーで「早く横断なさい」と圧力をかける。さすが、現地の方はダンプカーの運転手に道路横断時に頭を下げる。この運動行動に理解を求めることだと思う。私達も共感しそのようにした。安和桟橋へのダンプカーの入口・出口に分かれて阻止行動した。天候が悪く時おり雨や風での困難も、交代しながら現地の



安和桟橋の入り口でも抗議行動が

年寄り達は元気が良い・強い。私は、この方達の信念をここで学んだ。やはり、機動隊・防衛局・民間警備はここでも妨害する。さらに辺野古でも権力の力を強く感じました。この機会に伊江島に行き阿波根昌鴻さんのことを知り、団結小屋も行きました。まだまだ不勉強で再度行きたい気持ちになりました。(まつもとひでき)

※西浦さんには大変お世話になりました。

基地を持つ国は基地にて亡ぶ

辺野古土砂ストップ北九州 世話人 大野保徳

■念願の伊江島に

7年前、真喜志好一さんの話を聞く機会があり、私は、心を強く動かされました。その時、阿波根昌鴻という人の名前と伊江島を始めて知りました。このことがなければ、私は辺野古土砂北九州の会員になることもなかったことでしょう。12月1日、念願の伊江島へ行くことができました。多くの方がご存じかとは思いますが、伊江島での敗戦前後27年間のできごとをお伝えしたいと思います。

辺野古新基地建設のための土砂を積み出す港は、2か所あります。その内の1か所、塩川港のある本部町の本部港からフェリーで30分のところに、伊江島があります。伊江村のHPによると、現在の人口は4,381人、面積は23km²、早足で歩けば、1時間程度で端から端まで歩ける程度の広さです。タッチュー（城山）と呼ばれる岩山（172m）がありますが、それ以外は真平な島で、土の色が素晴らしい畑ばかりで田はありません。

■年代順で見る伊江島の戦争

それでは、伊江島への日本軍登場から年代順に出来事を記していきます。

- ・1943年3月…日本軍飛行場建設開始
村民が徴用で建設に従事。
- ・1945年4月16日～21日…米軍伊江島上陸、攻防で住民の3分の1の1,500人が亡くなる。アハシャガマでは、150

人が集団自決。

- ・1945年5月…村民、慶良間島に強制移動。伊江島が本土爆撃の基地に。
- ・1947年3月…村民、伊江島に帰還。
- ・1954年6月…4戸立退き（4人の地主は同意） 米軍は、目的を言わず、「農耕自由、損害補償、生活不自由させない」と言っていたが、立退くとすぐに爆撃演習で農作物は焼かれ、ブルドーザーで潰された。
- ・1954年9月…米軍は、半径5,000フィート（1.5㎞）、150万坪の土地の接収と民家152戸の立退きを村長に通告。琉球政府への陳情、軍との交渉。
- ・1955年3月11日…300人の武装米兵が大型上陸用舟艇で伊江島に上陸。
- ・同年3月14日…米兵のブルドーザーにより、真謝地区の13戸の農家が破壊され、農作物が潰され、農地が引きならされた。13戸の人々の帰る所は、米軍が予め用意していたテント幕舎だった。
- ・同年5月11日…「危険!!爆弾投下地点、米軍以外立入禁止、違反者は処罰されます」という米軍の立札の傍に、農民は、「農民以外の方は立ち入りを遠慮して下さい」と同じ大きさの札を立てて耕作を強行。このことは、米兵による暴行、32名の逮捕、投獄につながりました。

- ・同年 7 月 21 日…琉球政府庁舎前座り込みから、「乞食行進」を開始し、翌年の 2 月まで沖縄島を廻る。現地では、農民や子供達が自主的に米軍の鉄柱、金網、立入禁止の看板を撤去し、スクラップにして換金。
- ・1956 年 5 月…米軍による横暴が続く中、真謝区の人々は借金して演習地の周囲に住家を建て始める。演習地内に入る際の通行証受け取りを拒否。
- ・1959 年 9 月 6 日…二人の青年（28 歳と 38 歳）が、掛け売りで買った米代を払うために畑で拾った爆弾を解体作業中に爆死。
- ・1961 年 2 月 1 日…演習地外で山羊の飼料の草を刈っていた青年（20 歳）が、演習弾スキップバームで直撃され、即死。米軍は現場をブルドーザーでなら

して新しい杭を打ち、演習地内に入っていたかのように偽装。

- ・1961 年 7 月 12 日…米軍は、上陸用舟艇でホークミサイルと建設資材を持ち込み、基地を作ろうとした。島ぐるみの村民の即時の抗議、座込行動で断念させ、ミサイルを持ち帰らせた。この頃、沖縄の基地を飛び立った米軍機が、連日ベトナムを爆撃してベトナムの農民を虐殺していた。この抗議行動を通して、米軍基地に反対する闘いが、ベトナムの民衆と連帯する闘いであることを伊江島の農民は認識し始める。
- ・1967 年 12 月…団結道場の建設を始めたが、米軍による暴行、妨害の中、建設を急がなかった。
- ・1968 年 11 月 10 日…沖縄県民念願の「主席公選」選挙で革新統一候補の屋



反戦平和資料館の館長・謝花悦子さんと、左から世話人の宗吉さん・大野さん・松本さん

良朝苗氏当選。

- ・1970年5月1日…米軍は伊江島軍用地の41%の解放を新聞で発表。島の67%を占めていた軍用地は、35.2%に。
- ・同年5月5日…団結道場の建設を再開し、9月に完成。

■農民の「陳情規定」とは

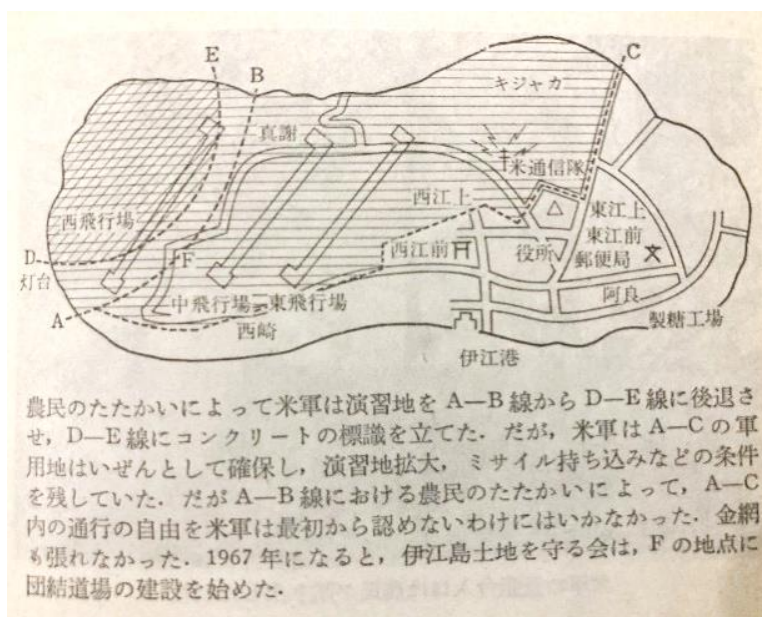
伊江島の農民の苦しみは、上記にとどまらず数名の餓死者も出ました。そういった米軍の横暴に対し、当初から、村長を始め農民たちは琉球政府に繰り返し陳情を行います。しかし、琉球政府は頼りにならないことを悟った農民たちは、直接米軍と交渉を始めます。できるだけ代表者をつくらないで交渉をするなかで、自然とリーダーとなられたのが阿波根昌鴻さんでした。

家屋撤去という実行使を行う前には、通訳や測量、調査を行う米兵が島を訪れました。その時、農民は、次のような「陳情規定」を作成しました。

「会談のときは必ず座ること」「集合し米軍に対応するときは、モッコ、鎌、棒切れその他を手を持たないこと」「耳より上に手を上げないこと」など11項目。この「陳情規定」は、その後の米軍との交渉時に実践されます。阿波根昌鴻さんが沖縄のガンジーと言われる所以です。

■カメラで証拠写真残した阿波根さん

私達は、最初にヌチドゥタカラの家反戦平和資料館を訪れました。そこには様々な資料と共にたくさんの写真が解説付きで掲げられていました。その写真のすべてを阿波根昌鴻さんが撮影されています。その当時、手に入れることも難しかったカメラ(上から覗いて写すカメラ)を購入して、爆死した青年の姿を撮影しておられます。怒りで手も震えるなかでの撮影だったことでしょう。米軍はあらゆることを無かったことにするとの思いから、カメラで証拠写真を残すことに徹した阿波根昌鴻さんでした。



地図に見る農民のたたかい

■団結道場が建設されて 52 年

反戦平和資料館を見学の後、館長の謝花悦子さんのお話を伺い、カフェ・ハーブ 100%でランチ。その後、隣席の女性客から勧められたハイビスカス園(大きな花が咲き誇っているそうです)はスルー(ジジばかりの 3 人組、すぐに合意)して、店長の山城弘子さんお勧めのアハシヤガマ(集団自決の自然洞窟)、城山(291 階段で頂上へ、360 度のパノラマ、残念ながら米軍演習地は確認できず)、湧出(ワジ・断崖 60m 下から湧き出る清水、貴重な水源)を経て、最後の団結道場に辿り着きました。

団結道場は、米軍演習地に向かって、「米軍は伊江島からすぐにでも退去せ

よ!」と言わんばかりにどっしりと建っていました。その壁には「米軍に告ぐ」。その最後に「基地を持つ国は基地にて亡ぶ」と。

道場が建設されて 52 年、阿波根昌鴻さんが亡くなられて 20 年になります。4 年前からは、辺野古へ向かう土砂運搬船が伊江島の近くを行き交うようになりました。「必ずやその土砂運搬船を止めたい!」との思いを新たにして伊江島を後にしました。(おおのやすのり)

参考資料

米軍と農民 阿波根昌鴻著 岩波新書
ヌチドゥタカラの家 反戦平和資料館 パンフ 展示資料
伊江島はにくす平和資料館 掲示資料



抵抗の拠点「団結道場」

秋の訪れと「ひろゆき発言」

ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表／フリーライター



陽射しはまだまだ強いが、吹く風が心地よい。朝晩はめっきり涼しくなった。沖縄には「四季はない(夏と冬しかない)」と言う人もいるけれど、そんなことはない。やんばる路に揺れるススキの穂、ピンクの可憐な芙蓉の花が秋の訪れを告げている。「ケーン、ケーン」と金属音を響かせるオオシマゼミも秋の蟬だ。沖縄で唯一の紅葉を見せるハゼの木も、まもなく色づくだろう。

「ピクィーッ」という鳴き声に思わず見上げた空は、どこまでも青く深く澄み渡り、吸い込まれそうだ。声の主はサシバ。鷹の仲間の渡り鳥で、この時期、南への渡りの途中、沖縄の島々でしばし羽を休める。タンパク源の乏しかった昔、「鷹ジューシー（サシバの肉を入れた雑炊）」は、この時期だけのご馳走で、サシバを捕まえるのは子どもたちの役割だったという。

群れが南へ渡った後も単独で島に残り、島で冬を越す個体がいる。これを「落ち鷹（ウティダカ）」と呼ぶ。「ピクィーッ」というその声が淋しそうで、群れから離れたのは何かわけがあったのか、それとも島が気に入ったのか…、いろいろ想像を巡らせてしまう。

そんな自然の確かな営みとは裏腹に、

わが人間界は何とも浅ましい。人間同士が殺し合う戦争は止まず、政治の底なしの腐敗、貧富の格差の拡大、エスカレートする差別やヘイト…。

新基地建設反対の座り込みが続く辺野古ゲート前での「ひろゆき発言」が大きな波紋を呼んだ。作業車両の搬入が終わり、抗議の人々が帰った後の無人のゲート前を訪れたひろゆき氏が、そこに書かれていた「座り込み 3011 日」について「誰もいないから 0 日にしたほうがよくない？」とツイートした発言だ。

意図的に沖縄を貶めようとする確信犯に何かを言う気にはなれないが、いちばんの問題は、何も考えず、それに「いいね」を押す人が何十万人もいることだ。沖縄の歴史も基地問題も、そこに座り続ける人々の思いや苦悩を想像することもなく付和雷同することの恐ろしさを思うと、背筋が寒くなる。

しかし、世の中悪いことばかりではない。ひろゆき発言を鵜呑みにせず、実際に確かめたいと、県外からわざわざ訪ねて来る人たちが結構いて、丁寧に話を聞いていく。発言に怒った県民の座り込み参加が増えたり、差し入れが届いたり…。自分の頭で考え、話し合う方向に逆転させる機会になればと願っている。

うらしまえつこ(10月28日記)

《連続学習会》第3弾を 2月から始めま〜す

2020年、世話人会で「日米地位協定・日米合同委員会・日米安保条約」の連続学習の計画を立てました。

私たちは地位協定と合同委員会の学習で、戦後の占領状態を引き続き作り出す組織としてこれらが存在し、日本がいまだに真の独立国とはなっていない原因となっていることを、学びました。

第三弾はいよいよ安保条約です。ぜひみなさん、ご参加ください。

テキストや日程などは、 1月号の会報でお知らせします

本当は、この会報で詳細をお知らせして、1月から開始する予定でしたが、いろんな日程の関係で、2月開催となりました。もうしばらくお待ちください。



《声の欄》



あまりの物価高に、どんぶり勘定の私も最近は家計簿をつけるようになりました。外食・冷凍食品をやめ、シンプルな食事ですが、毎日手作りしています。これまで捨てていたものも、今はみそ汁の具やぬか漬けにして食べています。

総理宛に葉書を書こうかな。「大根の皮まで食べています。何とかしてください」って…。

(北九州市小倉北区・K)

《辺野古土砂北九州・今後の予定》

- 12月21日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 12月24日(土)…《小倉駅前街頭宣伝》16時～
- 1月11日(水)…《会報・発送作業》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 1月25日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 1月28日(土)…《小倉駅前街頭宣伝》16時～

編・集・後・記

2月の名護市長選挙とロシアのウクライナ侵略開始・コロナの感染拡大・「防衛費5年約43兆円」を指示した首相のもとですすむ軍備拡大など、気の重くなること多い1年でしたが、沖縄県知事選の再選と、吉田敏浩さんの「日米合同委員会」の学習は、私たちに元気をくれました。

いま、会報編集者の眼の具合が今一(長くパソコンを見られない)で、会報11月号はお休みし、連続エッセイの浦島悦子さんの原稿も、10月末頃いただいたのに12月の掲載となり、ご迷惑をおかけしました。

今年もあと少しですね。どなたも良き新年をお迎えください。(y)

「辺野古土砂ストップ北九州」入会のご案内

年会費は個人 1000 円・団体 3000 円です。

【辺野古土砂北九州の口座は】 ゆうちょ銀行 記号番号 01700-7-166911

【他金融機関から振り込む場合は】 ゆうちょ銀行 当座 一七九店 0166911

加入者名…「辺野古土砂ストップ北九州」

【お問い合わせ】 大野保徳 090-4482-0043 までお気軽に。

退会希望の方も、大野まで



世話人
連絡先

《辺野古土砂ストップ北九州》

声の欄の
原稿の
送り先

メールアドレス…hts@mtc.biglobe.ne.jp

〒800-0117 福岡県北九州市門司区大字恒見 122-3 藤堂方

藤堂 090-6299-2608・南川 090-2853-7116・八記 080-1730-8895

発行 2022 年 12 月 7 日